



THE LETTER 宇都宮東教室

第 16 号 「入試開幕、面談」

発刊日 2026 年 1 月 15 日

文責 熊澤洋一

2026 年新年を迎えて、早 2 週間。年月の進むのが早くなってきたと感じる・・・「ジャネーの法則」と呼ばれ、人が主観的に記憶される年月の長さは、年少者には長く、年長者には短く評価されるという現象を心理学的に説明したもの・・気のせいではなかったのですね。

栃木県高校入試は、年明け直後に第 1 弹「私学高校入試」が立て続けに実施され、結果が判明した。「できた、できない」の声が方々から聴こえています。しかし、首都圏入試と違い「第一志望は私立、そこへ向けて全力」という土地柄ではない。合格率は 100%、よって「歓声」が上がる事もなく、事実を受け止めるだけ。さらに、結果に納得できない場合、「2 回目」の再受験まで用意されている。続いて第 2 弾「推薦・特色入試」期間へシフト中である。ここから先は「第 1 志望」者の主戦場・・・自習室は「中 3・高 3・既卒受験生」であふれ、緊張感が漂う今日この頃。

勉強している生徒たちは「目標に向かい努力する」ことが仕事です。塾での授業時間など数時間に過ぎません。その内容を「復習」し「体得」するための「自学時間」が最重要です。親はそれをそっと「支える」のが仕事であり・・。結果がすべての世界ではありますが「お子様の頑張っている姿」を「応援できる」期間もあと少しです-大学生は完全に大人です-。送迎など「物理的」な応援から、「心理的」な応援まで多種多様。一方、メンタル的に難しくなってきた生徒（本年は少なかつた）は我々に相談されてください。多くの事例を見てきた中から「最善の解決策」を提案させていただきます。現在新年度へ向けての「保護者面談」日時を案内中です。気になる点がございましたら会わせてお声がけ下さい。いつもご協力ありがとうございます。